

平成28年11月8日(火)

老球の細道282号

ゲームマネジメント (VIII) タイムアウトをとるタイミング

会津バスケットボール協会 室井 富仁

能代工業バスケットボールの全盛時代を築いた2代目加藤三彦氏はゲーム中タイムアウトをほとんどとらないコーチだったと記憶している。かつて加藤氏になぜタイムアウトをとらないのか聞いたことがある。答えは「相手に休む時間を与えるから」だった。さすがに「必勝不敗」のスローガンに掲げるだけ独特のフィロソフィーを持っていた。

バスケットボールにおけるタイムアウトは、ゲームの流れを変えたり、戦術面においてコーチの考え方を反映させたり、ゲームプランの軌道修正するために重要、かつ欠かせないコーチングスキルである。特にゲームの終盤の接戦時は勝敗に重要な影響を与える。

1・時間的な面からみたタイミング

よく言われるのは試合の前半、特に1クォーターの出だしが思うようにいかなかったり、相手が調子が良かったりした場合は早めにとるのが良い。プレーヤーのあがり、緊張から早く脱出させることと、点差を広げられて傷口を大きくしないためである。

試合の後半は遅めにとる。終盤の大切な時間帯のために残しておくことは定石だろう。

2・状況的な面からみたタイミング

①相手チームの流れ、勢いを止める

相手の連続ゴール、相手との得点差が10点くらいになったら通常とらなければならないだろう。タイムアウトで勢いを止める。ゲームの流れを変えるためにはタイムアウト明けのプレイで必ず得点すること。オフェンスとディフェンス両方の指示をする。

②自チームがゲームのリズムをつかめない

なかなか得点がとれない、ターンオーバーが多いなどはゲームの出だしによくあることである。チームプレイヤーの考え方が統一されていないときに起こる。このような場合は早めにタイムアウトをとり、自分たちのゲームプランを確認させる。

③戦術的な状況から

ゲームの勝負どころ、各クォーターの終わりなどはタイムアウトの見せ所である。ここでコーチは多くの引き出しを持たなければならない。オフェンスにおいては最後のシュートを決める特別なパターン。ディフェンスにおいては具体的な守り方の指示、どこを、誰を、どのようにして守るのか。「一生懸命守れ」「頑張れ」ではコーチングにならない。

番外編であるが、相手のフリースローを落とさせたり、相手のコーチが熱くなっている時にプレイヤーを怒らせるためにタイムアウトをとるといった心理的な戦術もある。

④プレイヤーを休ませる

メンバーが少なかったり、高齢者が多いチームによくある。疲れているだろうからといって休ませてしまうと、流れが急変する場合があるので要注意である。

⑤接戦時はできるだけ相手に先にとらせる

大事な場面でタイムがなくなっていると、後は選手、神頼みになるしかない。接戦の勝負はコーチの勝負。タイムアウトでの知力の勝負になる。そのために最後のタイムアウトは残しておこう。負けている時はあきらめることなくタイムアウトを使い切ろう。(完)